

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900374		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケア伏見 グループホーム (2F)		
所在地	京都府京都市伏見区日野谷寺町68		
自己評価作成日	平成29年3月25日	評価結果市町村受理日	平成29年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jikvsvocd=2690900374-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い意味で職員が全部するのではなく共に築いていける環境作りを実践しています。食事の味付けについても決められた分量はあるものの、利用者に味見をしてもらい決めたりできていることがいことだと思ふ。レクリエーションではネイルのボランティアが来てもらえ、利用者の爪のおしゃれが出来ている。職員体制は少ないかもしれないが、外出も積極的に取り入れ、職員が物を買ってくるのではなく、利用者と一緒にいくことで、外に出る機会をたくさん作っている。入浴や食事の時間を大まかには決めても、利用者のペースで過ぎて頂けている関わりは出来ていると思ふ。職員の成長為、毎月の目標を立て振り返りを記載することで、毎日が同じではなく職員の意識の向上、スキルアップにつながられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは笑顔で安心して暮らせる我が家のようなホームを目指し、職員間で意見を出し合い初詣や夏祭りを企画し楽しんでもらったり、ホーム内で運動ができるようにエアロバイクで目標を持って取り組めるように工夫し筋力低下予防に努め利用者のできる事の維持に向け取り組んでいます。初詣等の外出行事の他、その日の気候や希望に合わせ、少人数でその時に咲いている桜や梅、桃等の花を見に行ったり、琵琶湖や大津峡等にドライブで出かけるなど、日常的に外出の機会を作っています。また、利用者の生活歴や習慣を大切に、書道の元先生が活躍できるように習字教室を行ったり、ホームでぬか漬けをつけたり台所で一緒に食事作りに携わる方もおり、それぞれの得意なことを活かして生活できるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人と人とのつながりを大切に日々のケアを行っている。	法人の理念の基開設時に職員間で意見を出し合いホーム独自の理念を作成しています。入職時に説明したり新しい職員間で理念に込められている思いについて話し合ってもらうこともあります。笑顔で安心して暮らせる我が家のようなホームを目指し、理念が実践できるように日々の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などの日課を通して朝の挨拶などを行っている。公園での仏の水替えを通してねざらいなどの声掛けから会話が出来る。	自治会に加入し回覧板等で地域の情報を得ており、秋祭りに利用者や行ったり職員が地域の清掃活動に参加しています。開設後間もなく一年を迎える当該ホームは、地域に初めての介護施設であり、内覧会やホームの行事案内などを行いながらホームの事を知ってもらえるよう取り組んでいます。近隣の保育園児の来訪があり歌などの披露があり交流しています。小学生との交流等も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の自治会の方を招き、事業の説明会などを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、行えている。近隣からのお祭りの情報収集や、施設で行えることの共有をおこなった。	会議は家族や地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長等の参加を得て、2か月に1回開催しています。利用者の状況や行事、ヒヤリハット事例等を報告し、活動内容の評価や意見交換をしています。地域に溶け込むための意見をもらい防犯清掃活動に参加する等、意見を運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なこと等、その都度連絡をして指導を仰ぐようにしています。	運営推進会議の議事録を区の窓口へ直接持って行ったり、事故の報告や生活保護の受入れについて聞きに行く等ホームの状況を知ってもらっています。市主催の地域連絡会議や研修はできるだけ参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアの施錠はしているが、利用者の希望時には常に開けての対応をしている。	開設時に身体拘束についてのマニュアルに沿って研修を行い、言葉による行動の制止も含めて具体的な事例を出し、職員間で考える時間も作りながら周知しています。エレベーターや2階のフロア入り口、玄関には鍵をかけていますが、外に行きたい様子があれば寄り添い、一緒に散歩に出ることもあります。センサーの設置には職員に利用者が安全に移動できるためであることを伝え、家族にも理解を得たうえで使用しています。	

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に1度研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかりと納得してもらえるように時間を使い説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、反映している。個々の家族の要望にも随時聞くような声をかけている。	家族の面会時にはリーダーが窓口となりコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くように心掛けています。時には電話で利用者の様子を伝え家族から意見を聞いています。個別のケアに対する意見や要望が多く都度検討し速やかに対応しています。行事予定を知りたいとの要望から毎月送付する便りに行事を載せる等、出された意見は運営やサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的に面談や、日々の業務の間で会話を通して意見を聞いている。	毎日の申し送りや月に1度行われるフロアごとの会議で意見や提案を出しており、会議に出席できない職員には事前に意見を聞いています。問題や課題があれば日々職員間で話し合っています。外出行事や夏祭りの企画、ホーム内で運動ができるようにエアロバイクの購入や実施など、様々な意見や提案が出され運営に反映しています。職員の様子を見て随時面談も行い、個別にも意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人役割を持つことでやりがいにつながっている。毎月の目標から振り返りを行うことで自分を振り返れる時間を作り日々向上をめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも参加をできるようにすすめている。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会に参加をして、勉強をさせてもらっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めはアセスメントを通して、関わりの中から本人の希望を尊重しながらケアを考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に話を聞くことを行い、面会時や電話連絡時にも、要望が無いかなども確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なことを最重要課題としてケアプランに反映してケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良い意味で全部をしてあげるのではない認識をし職員が持ち、出来ることの最大限をしてもらえるケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	過去の生活スタイルや最近の話をするこでの情報収集や様子を1か月に1度書面で伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に積極的に面会をして頂くようにしています。	親戚や兄弟等の来訪があった時には居室やリビング、人数の多い時には相談室を利用してもらい、ゆっくり過ごしてもらえるようお茶や椅子を準備し配慮しています。コミュニケーションが図れるように職員が間に入ることもあります。ドライブに出掛けた時に馴染みの場所の近くを通ることもあります。家族と墓参りや法事に出かける際には、出かけるための準備等の支援をしています。	

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置も利用者希望で全員が顔の見える場所にあり、関わりを積極的に持つてもらえる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	3Fフロアでは1名退所があり、入院時や亡くなる時まで連絡をしていた。2Fでは退所されている方が無い状態なのでその時はご支援をしていきたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴も就寝前に入りたい希望がある方についても夕食後に入浴できる環境をしている。就寝時間や起床時間もその人の希望に沿って施設特有の時間通りの過ごし方はしていない。	入居時に本人や家族と面談を行い、生活歴や習慣、希望などを聞き思いの把握に繋がっています。入居後に利用者とのコミュニケーションを図る中で得られた情報をアセスメント用紙に記入し、カンファレンスで本人本位に話し合い思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の配置などを工夫し、自分で行えることの幅を広げて上げれるケアをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の情報の共有を行いケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの評価も介護職が担当し行い、利用者本人とも話をする時間を作り、家族には面会時や電話連絡を行い話し合いをしている。	本人や家族の思いやアセスメントを行い介護計画を作成しています。3か月毎に担当者が評価したものを基に職員間で話し合いモニタリングや再アセスメントを行っています。基本は6か月毎に見直し、見直しに当たっては、往診時の医療情報や本人・家族に意向を確認したうえでサービス担当者会議を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を行っている。それ以外にも共有ノートや申し送りを活用している。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診などの対応も施設職員が対応するときもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	物の買い物はその人が個人的に必要なものは職員と一緒に買い物に出かけている。金銭も自分で出来る人に関してはしてもらいうケアをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回以外にも依頼すればすぐに対応してもらえる。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、継続する場合は受診は家族と行ってもらったり往診を受ける方もいます。協力医の往診は2週間に1度あり、24時間対応で利用者の体調の変化時などは連絡を取り指示を受けています。専門医への受診は家族に対応してもらい、必要や希望に応じて歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、訪問看護との連携を調整しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に訪れて互いの情報の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ現状そのような方がおられないので出ていないが、出来る体制や職員の思いはある。	契約時に重度化対応及び看取りケアに関する指針を基に、家族の協力が必要なことや医療面でできないことも含めて説明し意向を聞いています。まだ開設一年であり看取り支援の経験はありませんが、医療連携体制を整える予定でもあり研修なども行っていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応できる書類などは作成している。研修を開設時は行ったがその後継続は出来ていない。新人職員には書面での説明をしている段階。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。職員や利用者の参加もできた。	年に2回消防署の立ち合いの下、昼を想定し通報や初期消火、避難誘導の訓練を行い、夜間に関しては消防署員からアドバイスをもらっています。地域との協力体制については自治会と相談中であり、運営推進会議で訓練の報告をしています。ホームの建物の外側の倉庫をに水や食料等の備蓄を置いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気をつけている事や、月間目標に上げ意識の向上をしている。	接遇マナーやプライバシー等の研修をマニュアルに沿って行い、職員に周知し利用者に対して年長者であり丁寧な言葉遣いで対応することを心がけています。関係性を築き親しみのある言葉かけとなっても口調が強くなるように配慮し、不適切な対応があれば都度注意しています。利用者が呼んでほしい呼び方にしたり、希望に応じて同性介助の対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	してくださいの声ではなく、相手に伺いながらケアの実践をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に朝が多いが、起床はその人の時間に合わせて朝食も起床されてから用意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の希望や自分で着替えを用意されて着替えている。ボランティアでのネイルは喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、みんなで協力をして出来るを取り組まれている。	業者から献立に沿って食材やレシピが届き、利用者の希望にそってアレンジを加えることもあり、利用者も食材を切ったり、味見や調理などのできる事に携わりながら食事作りをしています。時には利用者と買い物に行き鍋料理をしたり、手作りおやつ、利用者が主体となって菜園で採れた野菜で漬物をつける等、食事を楽しんでもらっています。寿司などの外食や法人内の施設と合同でバーベキューなどの行事にも参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が考えた物を依頼している。摂取量も記録を行いながらしている。水分がまとめて飲めない方に関してもこまめに水分の時間を作ることで全体量を増やしている。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助でトイレに行けなかった方がトイレに行けるようになった。夜間もポータブルトイレを使用することで排尿が可能になった。	排泄記録を付けて個々の利用者のパターンを把握し、トイレで排泄できるように支援しています。支援を続ける中でトイレに行きたいとの意思を伝えることができるようになった方や失敗が減り紙パンツから布の下着に変更した方もおり、自立に向けた支援を行っています。日々の申し送りやカンファレンスで本人の希望も聞きながら排泄用品の種類の変更や支援の方法を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操を行い、体を動かしてもらっている。ホットパックを使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時に入浴をしてもらっている。昨日入っても希望があれば可能な限りはいつでも入浴をしよう。	週に2回を目処に利用者の希望を聞きながら入浴の支援を行っています。職員の体制があれば日中や夕食後の時間帯に入浴したり、回数を増やすなど希望に添って支援し、入浴を好まない方には時間帯や声を掛ける職員を変えながら無理なく入ってもらっています。一人ずつ湯を入れ替え、ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯、入浴剤も利用しながら入浴を楽しんでもらっています。好みのシャンプー等を持参している方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間をきめないでその人が眠たくなったときに休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大まかには薬の用途を理解している。症状の変化は日々申し送りをし、何かあれば医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備やレクリエーションなど自分の得意なことを積極的にされている。糠漬けをされていた人に聞きながらすることでしてくださる。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、ドライブに行ったりしている。買い物も利用者インターネットにしないで外に出る機会を増やすために利用者とスーパーへ出かけている。	毎日散歩に出かけたり、近隣の公園におやつを持って出かけることもあります。初詣はユニットごとに場所を考えて行き、その日の天気や希望に合わせて、少人数でその時に咲いている桜や梅、桃等の花を見に行ったり、琵琶湖や大津峡等にドライブで出かけています。日々外気浴をしたり畑の水やりなどで、日常的に外に出る機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はご本人にしてもらい、施設管理の方は一緒に考え支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度は年賀状作りを実施しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感などは作品を通して居心地の良い空間は作れている。	各フロアの利用者と相談したり様子を見ながらテーブルの配置を決め、テーブルの下には手作りの足台を置き過ぎやすく工夫しています。運動ができるスペースを作ったり、少人数で過ごせるようソファを置いています。季節が感じられるよう利用者と一緒に季節の飾りつけをしたり生花を飾っています。毎日掃除を行い、換気や利用者の体感に合わせた温度管理等にも気を配り、心地良い共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話せる場所は作れている。時々他のテーブルで2人で話されたりもしているが、一人になれる空間はない。エレベーター前などを今後は活用したいと考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使っていたものなどを持ってこられて居室内で使用している。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように伝え、タンスや鏡台、テーブルとイス等を家族と本人で配置してもらい、入居後暮らしやすさを考慮して変更することもあります。趣味の編み物や書道の道具を置いたり、家族の写真や以前に作った作品等を飾っている方や神棚があり水を変えることが日課になっている方もおり、その人らしい居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所のみわかるようにして自己にて行けるようにしている。床に物を置かないようにして危険なく過ごせるようにしている。		